

「地域密着型金融」の取組み状況 (平成23年4月～平成24年3月)

- 金融庁の「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」においては、地域金融機関に求められる恒久的使命として、①ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化、②事業価値を見極める融資をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底、③地域の情報収集を活用した持続可能な地域経済への貢献(以下「主要項目」という。)について恒久的な取組みが求められており、当金庫では、平成22年度に新たな中期計画(平成22～24年度)や単年度事業計画を策定し、地域内企業の育成・支援や地域内全体の活性化のための継続的な取組みを行ってまいりました。
- 「地域密着型金融」の取組みとしては、金融業務を通じた地域貢献はもとより、当金庫のビジネスモデルの高度化と収益力の向上につながるとの認識に立ち、「自主性・創造性を発揮した取組み」を促進し、地域内経済の活性化に注力しながら実効性の確保に向けて着実に取り組んでいます。
- 当金庫は、「よろず相談信用金庫」を標榜しており、「取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮」、「顧客基盤の維持・拡大、収益力・財務の健全性の向上」、「地域の面的再生への積極的な参画」、「地域や利用者に対する情報発信」等の取組みを継続的に推進し、健全経営の維持向上に努め、地域の皆様にとってなくてはならない信用金庫を目指し取り組んでまいります。
- 企業の将来性や保有する技術力および定性的な非財務情報を適確に評価できる能力をもつ職員を養成するため、公的機関との連携強化や各種研修会の開催ならびに外部研修会への参加等を通じて、目利き能力向上に取り組んでいます。
- 今般、平成23年度の取組み状況を取りまとめましたので、以下の通り公表いたします。ご覧いただければ、当金庫の姿勢や取組みの状況をご理解いただけるものと思います。

平成24年5月

主要項目の進捗状況

I. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

- ① 取引先の実態把握、定性情報の収集・蓄積・活用に向けた当金庫独自の「企業概要カード」、「情報収集履歴」作成のための情報収集力養成により職員の目利き力向上に取り組んでいます。業況悪化先や経営改善を要すると認められる取引先企業を対象に、早期に改善支援に着手し、経営者との間で課題・問題点について共通認識とし、定期的ヒアリングやモニタリングを実施するとともに、外部専門家等との連携を強化し、事業再生・支援に向けた取組みを行っています。
- ① 兵庫県信用金庫協会から受託している(公益財団法人)神戸市産業振興財団の「川上・川下ビジネスネットワーク事業」に参画し、販路開拓(ビジネスマッチング)等に結びつける取組みを行っています。また、(公益財団法人)ひょうご産業活性化センターと共同で「知的資産経営セミナー」を開催し、「知的資産経営報告書」の作成により、あらためて自社を見つめ直す機会を得たことや、従業員の経営への参画意識の高揚、販路開拓や事業承継への取組みにも効果があったと評価していただきました。
- ② 多重債務者問題への取組みについては、多重債務問題に資する取組みを通じ、健全な消費者金融市場の形成に寄与したとして金融担当大臣より顕彰いただきました。「おまとめローン」等を活用した「返済負担軽減」や「生活再生」への相談・支援業務に取り組んでいます。
- ③ 当金庫のビジネスモデルを“よろず相談信用金庫の実践”としており、取引先経営者の高齢化等に伴う事業承継問題等、取引先の「問題解決に向けた提案」、「付加価値の高いサービスの提供」や「課題解決型・提案型ビジネス」を目指し、非財務情報を適確に評価できる能力の向上に取り組んでいます。

II. 事業価値を見極める融資をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

- ① 創業・新事業を開始される創業者等に対して、政府系金融機関との協調融資や信用保証協会の経営革新融資制度等を活用し、新分野への進出について積極的に支援しています。
- ② 政府系金融機関等との連携強化により、長期固定型・低利融資や過度に担保保証に依存しない融資等、顧客の多様な資金ニーズに対応しています。
- ③ 企業が保有する技術力や定性的な非財務情報を適正に評価し、販路開拓、ビジネスマッチング等に係る目利き力の養成のため、各種研修や公的機関等との連携を強化して取り組んでいます。

III. 地域の情報収集を活用した持続可能な地域経済への貢献

- ① 地域社会の活性化に向けた「ビジョン策定」や「公民連携」による地域一体となった広域の「面的再生」への取組みにより、地域の活性化が図られ、ひいては地域内の「資金の還流」が期待できると評価しており、引続き「公民連携」のコーディネーターの役割を果たしていきます。
- ② コミュニティ・ビジネスやNPO法人が行うボランティア活動に職員を派遣してのボランティアマインドの醸成、高齢者宅へのケア訪問、認知症サポーター養成講座、普通救命講習の開催、がん検診受診率向上活動、献血サポーターへの登録、優遇金利商品等の多様なサービスの提供や融資等を通じて、地域社会への貢献・還元に努めています。

項目毎の具体的取組内容と進捗状況

【 1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化】

項目	取組内容	実績・成果
(1) 創業・新事業支援		
・創業・新事業支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・創業・新事業融資目標 年間 30件 (うち創業支援特別融資目標 年間 10件) ・政府系金融機関等との協調融資目標 年間 15件 	<ul style="list-style-type: none"> ・創業・新事業融資 実績 30件 700百万円 (うち創業支援特別融資 実績 4件 16百万円) ・政府系金融機関等との協調融資 実績 3件 85百万円 (うち開業資金実績 1件 20百万円) ・創業・新事業については、業種的にサービス業(飲食・理美容・医療関係)の独立開業が多く、比較的小規模なことから、開業資金調達が創業時の最大の障害となっています。これらに対応するため信用保証協会や政府系金融機関等と連携し、協調融資等により資金提供を行うことで資金調達が可能となっています。
(2) 経営改善支援		
・経営改善先に対する課題・問題点等の提起及び経営改善の必要性についての共通認識	<ul style="list-style-type: none"> ・業況悪化先や経営改善を要する先および今後経営悪化が予想される先について、早期改善に着手するとともに経営者との間で課題・問題点についての共通認識を持つための定期的ヒアリングとモニタリングの実施 ・「川上・川下ビジネスネットワーク事業」に参画、「ビジネスマッチングフェア」の案内等を通じ、取引先の販路開拓等幅広い支援の実施 ・「知的資産経営セミナー」の開催 ・「ビジネスマッチングフェアin加古川」に出展 	<ul style="list-style-type: none"> 経営改善先として ・要注意・要管理先でさらなる経営悪化を防ぐ先 ・正常先であるが、今後業況不振で経営悪化が予想される先 ・その他業況等のモニタリングが必要な先等から97先(改善支援先102先、うち経営改善支援97先、事業再生5先)を選定し、経営改善支援に取組み、四半期ごとのモニタリングを実施し改善状況の把握を行いました。 健全化支援として ・早期発見、早期治療が最も重要であり、融資先表債20百万円以上の先に対する四半期ごとのモニタリングを実施しました。 ・改善支援にあたっては、(公財)ひょうご産業活性化センター、顧問税理士等外部の支援機関も活用しました。 ・兵庫信用金庫協会から受託した(公財)神戸市産業振興財団が行う「川上・川下ビジネスネットワーク事業」に参画し、取引先の販路開拓・「ビジネスマッチング」に活用しました。 ・(公財)ひょうご産業活性化センターと共同開催で取引先事業所ならびに職員向けに、外部講師を招致して「知的資産経営支援セミナー」を開催し、知的資産経営報告書作成の目的や効果等の説明を行いました。また、「知的資産経営報告書(サマリー版)」を作成された事業所には、報告書作成の目的や・作成時の苦勞ならびに良かった点・作成後の活用状況の成果を発表いただきました。 「知的資産経営支援セミナー」参加事業所 平成23年 8月開催 取引先: 56社 63名 他行政機関 1社 2名 サマリー版作成事業所 18社 本格版作成事業所 8社 ・24年8月 加古川市・東播磨県民局・加古川商工会議所主催の「第2回ビジネスマッチングフェアin加古川」に地元金融機関として出展しました。

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
(3) 事業再生支援		
<ul style="list-style-type: none"> 再生支援協議会等の積極的活用と策定計画のモニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> 再生支援協議会等の外部機関の積極的な活用により、対象先の事業再生を効果的に推進するとともに、経営改善全般におけるノウハウを吸収し、当金庫の経営改善支援活動のレベルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業再生支援対象先として6先を選定(うち4先は再生支援協議会にて再生計画策定)し、再生に取り組んでいます。 事業再生支援先においては、再生計画に沿って取り組んだ結果、社内の意識改革が図れ、生産性向上や経費削減等の成果があり、結果、事業再生が進みつつあります。 再生支援協議会による事業再生先4先のうち18年より事業再生に取り組んだ1先は、每期着実に利益を計上し借入返済を進めた結果、22年度に破綻懸念先から要注意先にランクアップしました。1先は、社内組織の整備等の計画の見直しを行い、引続き取り組み中です。23年度に再生支援協議会にて再生計画が策定された2先、今後、再生状況をモニタリングしていきます。
<ul style="list-style-type: none"> 多重債務者への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 多重債務者への対応については、あらゆる相談に応じることが地域金融機関の使命と位置付け取り組んでいます。 多重債務者への対応については、あらゆる相談に応じる“よろず相談信用金庫”としての位置づけで行っており、通常の融資審査対象外のものについても、経営相談部個人支援課が営業店をサポートし、事案によっては、直接顧客ヒアリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 多重債務者からの金融相談に対し適切なアドバイスを行える体制を整備し取り組んだ結果、借入負担の軽減等生活再生に一定の成果がありました。 債務の一本化による負担軽減や家族等の理解と協力を得ながら、取組事案の大部分が債務も順調に減少し生活再生に向かっていきます。 「生活再生ローン」の23年度取組実績 6件 23百万円 24年3月末残高 40件 1169百万円 (総実行額 65件 322百万円)
(4) 事業継承		
<ul style="list-style-type: none"> 取引先経営者の高齢化等に伴う事業承継 	<ul style="list-style-type: none"> 「知的資産経営セミナー」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> (公財)ひょうご産業活性化センターと共同開催で取引先事業所向けに、外部講師を招聘して「知的資産経営セミナー」を開催し、知的資産経営報告書作成の目的や効果等の説明を行いました。 また、「知的資産経営報告書」を作成された事業所には、報告書作成の目的・作成時の苦労および良かった点・作成後の活用状況の成果を発表いただきました。 「知的資産経営支援セミナー」参加事業所 平成23年8月開催 取引先: 56社 63名 他行政機関 1社 2名 うちサマリー版作成事業所 18社 本格版作成事業所 8社 円滑な事業承継を行うためには、法律面・金融面のみならず、創業者から後継者へのパトタッチの時期や財産の承継だけでなく、目に見えない強み(知的資産)の承継が重要であり、培ってきたさまざまな財産を引き継ぐ重要性を認識いただいています。 事業承継実績: 43先

【 2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底】

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
(1) 不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組み		
<p>・政府系金融機関・信用保証協会との連携強化による協調融資</p>	<p>・政府系金融機関との協調により双方の強みを生かした連携強化への取組み 政府系金融機関との協調融資 目標実行件数 5件 信用保証協会保証付融資 目標実行件数 1,360件 実行金額 10,802百万円</p>	<p>政府系金融機関との協調融資 実績 3件 信用保証協会保証付融資 実績 実行件数 697件 金額 4,757百万円</p>
<p>・スコアリングモデル・格付による事業性融資</p>	<p>・担保・保証に過度に依存しない融資への取組み スコアリングモデル・格付良好先に対する事業性融資商品の推進 実行目標 金額 50件 350百万円</p>	<p>スコアリングモデル・格付良好先に対する事業性融資 実行目標 金額 32件 87百万円</p>
(2) 企業の将来性、技術力を的確に評価できる能力等、人材育成への取組み		
<p>・現場力向上に向けた人材育成</p>	<p>・企業の成長性を見極め能力の向上 ・技術力を的確に評価できる目利き能力の向上 ・定性的な非財務情報の適正な評価を行うための能力の向上</p>	<p>営業店における渉外担当の「目利き能力」の向上を図るべく、内部研修と外部研修への参加を実施しました。</p> <p>《内部研修実施》 ・定性的な非財務情報の適正な評価、目利き力向上を図るため、「課題解決型融資推進研修会」を開催</p> <p>《外部研修派遣》 ・「経営支援人材育成研修」(中小企業大学校主催)に派遣 ・「融資渉外(法人・事業先)研修会」(近信協主催)に派遣 ・「融資渉外能力講座」(兵信協主催)に派遣</p>

【 3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献】

項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果												
(1) 地域全体の活性化、持続的な成長を視野に入れた、同時的・一体的な「面」的再生への取組み														
<p>・行政依存の体質からの脱却「生野ひいきの会」等の活動</p>	<p>・地域の魅力を発信し価値を再認識するため、市民・各種団体・企業・行政などが一体となった取組み</p>	<p>・平成19年12月、「住民の自主的なまちづくり」の組織作りに金庫経営陣が参画して「生野 ひいきの会」を創設し、基盤づくりに最も重要な5年目を迎え、「自分達の町は自分達で守り、後世に引き継ぐ」ことを基本として活動しています。</p> <p>・支援資金は、地元や生野に関係する個人・企業・団体からの寄付金で賄い、地元の有識者で構成する審査会を得て各種イベント等に支援します。</p> <p>・会員数及び支援事業件数 (24年3月末現在)</p> <table border="0" data-bbox="1198 427 2027 518"> <tr> <td>・会員数</td> <td>個人会員 647名</td> <td>・支援事業 件数</td> <td>48件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>法人会員 45社</td> <td>支援総額</td> <td>3,929千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>寄付総額 5,367千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・年間48件の催事・イベントが支援事業として承認され、総額393万円の支援を行い、催事・イベントのなかには、年々規模が拡大しているもあり、また、当地への来訪者も年々増加しています。</p> <p>・12月に「鉱石の道」シンポジウムが開催され多くの聴講者で賑わうなど、また世界遺産の国宝「姫路城」を有する姫路から「銀の馬車道」を經由し、神子畑、明延鉱山を結ぶ「鉱石の道」を産業遺産ツーリズムとして活用し、「面」としての広域観光資源として発展により地域内の「資金の還流」が期待できます。</p> <p>・「銀に馬車道」図案の定期預金証書を平成21年11月から取り扱い、年間12,000枚発行し、「銀の馬車道」のPR活動が図れ、営業地域の顧客から支援事業等に関心が高まっています。</p> <p>・中播磨南北交流、但馬地区交流のシンボルとして兵庫県全域に拡大しつつあり、当金庫理事長が各運営委員会の中心的存在であり「公民連携」のコーディネーターの役割を担うとともに、金庫として地域社会活性化に向けた取組みを推進しています。</p>	・会員数	個人会員 647名	・支援事業 件数	48件		法人会員 45社	支援総額	3,929千円		寄付総額 5,367千円		
・会員数	個人会員 647名	・支援事業 件数	48件											
	法人会員 45社	支援総額	3,929千円											
	寄付総額 5,367千円													
(2) 地域活性化につながる多様なサービスの提供														
<p>・兵庫県立松陽高校「アントレプレナー入門」(模擬店)授業</p>	<p>・アントレプレナーでの銀行からの資金調達過程「借入申込～融資審査」授業への協力</p>	<p>・平成23年4月開講 商業科 課題研究「企業経営について実社会の中で学ぶ」 「松の子本舗VI」を起業 資金調達方法の実践・体験</p>												
<p>・地域医療病院や地域社会福祉協会の職員の研修支援</p>	<p>・朝来市社会福祉協議会の新入職員研修で接遇・マナー講座を担当</p>	<p>朝来市社会福祉協議会の新入職員研修にて、一般的なマナー習得について3時間の講座を実施したため、理解しやすかったとの評価を受け、同協議会のホームページに研修の様子が掲載されました。</p>												
<p>・少子化対策としての「子育て応援商品」の取扱い</p>	<p>・少子化対策の一環として優遇金利の定期預金、住宅ローンの取扱い</p>	<p>・少子化対策として、子供3人以上扶養される家庭を優遇金利でサポートする「子育て応援定期預金“にぎやか家族”」、「子育て応援住宅ローン“にぎやか家族”」の取扱いのPRに努めました。</p> <p>・少子化対策商品の「子育て応援住宅ローン“にぎやか家族”」</p> <table border="0" data-bbox="1198 1276 1982 1428"> <tr> <td>・融資実績 実行件数</td> <td>160件</td> </tr> <tr> <td>実行金額</td> <td>26億 99百万円</td> </tr> <tr> <td>融資残高</td> <td>842件 127億 90百万円 (平成24年3月末現在)</td> </tr> <tr> <td>・定期預金実績 口座数</td> <td>1,314 口</td> </tr> <tr> <td>残高</td> <td>10億91百万円 (平成24年3月末現在)</td> </tr> </table>	・融資実績 実行件数	160件	実行金額	26億 99百万円	融資残高	842件 127億 90百万円 (平成24年3月末現在)	・定期預金実績 口座数	1,314 口	残高	10億91百万円 (平成24年3月末現在)		
・融資実績 実行件数	160件													
実行金額	26億 99百万円													
融資残高	842件 127億 90百万円 (平成24年3月末現在)													
・定期預金実績 口座数	1,314 口													
残高	10億91百万円 (平成24年3月末現在)													
<p>・若手音楽家育成セミナー「生野ムジカ」への開催協力</p>	<p>・若手音楽家育成セミナー「生野ムジカ」事務局として協力</p>	<p>・「生野ムジカ」のレッスンは世界的にも類を見ない内容であり、修了コンサートも盛況で、受講者からは継続的な開催を強く望む声が聞かれました。</p> <p>開催期間:平成23年7月25日～8月6日(修了コンサート:8月6日 午後2時開演)</p>												

・ボランティアマインドの醸成	・NPO法人「但陽ボランティアセンター」に職員を派遣	・23年度のNPO法人「但陽ボランティアセンター」への派遣は、延べ1,165名を派遣、身体障害者のための「移送サービス」等の活動に参加し、ボランティアマインドの醸成に大きく貢献できました。この「移送サービス」の利用者は、年々増加しており、外出手段としてなくてはならないものとなっています。今後も継続的に職員の派遣を続けます。
・独居・高齢者宅のケア訪問	・営業地域内で独居または高齢者宅へのケアのための定期訪問の実施	・渉外担当者による営業地域内の独居老人や高齢者宅約2,300先を対象にケア訪問を実施、『困ったときの相談が容易にできるので安心』との声をいただいております。今後もこの活動を継続していきます。
・「普通救命講習Ⅰ」の開催	・当金庫職員の応急手当普及員による普通救命講習を開催	・23年度134名の職員が受講し、24年3月末現在514名の職員が修了し、また取引先事業所・営業地区内各種団体から講習開催要請に基づき「普通救命講習Ⅰ」を開催し、修了証書を発行しました。
・献血サポーター	・当金庫管理職会、職員組合共催による年2回の献血活動の実施 ・日本赤十字社が推進する「献血サポーター」に登録	・日本赤十字社が推進する「献血サポーター」に登録し、当金庫管理職会、職員組合共催による献血キャンペーンを2回実施しました。平成7年から夏季および冬季の輸血用血液の不足する時期に継続して開催しており、日本赤十字社を通じて血液を必要とする方に貢献するだけでなく、職員の健康管理にも役立っています。 23年度 ・夏季の献血協力者 264名 ・冬季の献血協力者 163名
・認知症サポーター	・全役職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催	・平成22年6月、店内で困っている高齢者に適切な対応を図ることを目的に、全職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催、現在654名の役職員が受講しました。認知症を正しく理解し、役職員が高齢者に対し適切かつ親切な対応をとるために必要と考えられ、金庫内での統一した認識を有するという点で大きな効果がありました。
・【 4. 地域や利用者に対する積極的な情報発信】		
項目	取組み内容	実績・当金庫にとっての成果
・施策の進捗状況の公表	・コンサルティング機能の発揮や地域の面的再生への取組みについての成果等をホームページやディスクロージャー誌や見やすい一覧形式で公表	・平成23年の「地域密着型金融の取組み状況」を6月にホームページ、7月にディスクロージャー誌や見やすい形式で公表しました。 ・平成24年の取組み状況は、平成25年6月にホームページ、7月にディスクロージャー誌に分かりやすい形式による公表に努めます。

経営改善支援等の取組み実績

【23年4月～24年3月】

(単:%)

(単位先数)

	期初 債務者数	うち 経営改善 支援取組 み先数	α のうち期 末に債務者 区分がランク アップした先 数	α のうち期 末に債務者 区分が変化 しなかった先 数	α のうち再生 計画を策定 した先数	経営改善 支援取組 み率	ランクアップ率	再生計画 策定率	
									A
正常先 ①	5,243	19	/	14	9	0.4%	/	47.4%	
要注意先	うちその他 要注意先 ②	977	130	9	108	93	13.3%	6.9%	71.5%
	うち 要管理先 ③	22	1	0	1	1	4.5%	0.0%	100.0%
破綻懸念先 ④	109	21	4	16	20	19.3%	19.0%	95.2%	
実質破綻先 ⑤	128	2	0	2	2	1.6%	0.0%	100.0%	
破綻先 ⑥	24	0	0	0	0	0.0%	—	—	
小計 (②～⑥の計)	1,260	154	13	127	116	12.2%	8.4%	75.3%	
合計	6,503	173	13	141	125	2.7%	7.5%	72.3%	

- (注)
- ・期初債務者数及び債務者区分は23年4月当初時点です。
 - ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含みません。
 - ・ β には、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載しています。
なお、経営改善支援取組み先で期中に完済した債務者は α に含めるものの β に含めていません。
 - ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合は β に含めています。
 - ・期初に存在した債務者で期中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理しています。
 - ・期中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めていません。
 - ・ γ には、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載しています。
 - ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上しています。
 - ・「再生計画を策定した先数 δ 」=「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」+「RCCの支援決定先」+「金融機関独自の再生計画策定先」

平成23年度数値目標の達成状況

項 目		計 画	実 績
「企業概要カード」の整備先数		2,500先	2,571先
「ひょうご中小企業技術評価制度」の評価取得		5社	6社
政府系金融機関との協調融資		15件	3件
創業・新事業資金		30件	30件
うち「創業支援特別融資」		10件	4件
経営改善計画対象先数		102先	173先
債務者区分ランクアップ		10先	13先
スコアリングモデルを活用した無担保ローン	件数	50件	32件
	金額	350百万円	87百万円
TKC関与先に対する融資「ビジネスサポート」		10先	1先
売掛債権担保融資(ABL)		15件	7件
販路開拓事業(マッチング事業)シーズ調査希望先		20先	8先